

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二二）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上村雅洋

凡例

三二 御用番留帳（寛文六年八月朔日～一二月二九日）

凡 例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐時翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。

一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、㊦・㊧のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、□□□□を
もってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙)(端書)(異筆)(付箋)などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(経済学部教授)が行なった。

三二 御用番留帳

(表紙)
寛文六年

午ノ八月六十二月迄之

留帳

八月朔日

八時分大雨風、暮合ニ風止、
それ小雨

今朝六半時分ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申、五過ニ致
登城、四時分ニ帰宿仕候、当月ハ帶刀当番也

一今晚権五郎部屋ニ而始而我等を振廻申候付、八前ニ参暮合
ニ罷戻候、盃之上ニて兼房之脇指遣申候、斎藤源藏方、鵜
飼海安老、長田権十、佐野孫兵被参候、長斎、永庵も参候、
右何れも権五郎方ニ頼申候

同二日

今朝五前ニ坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候

同三日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候

一宰相様衆内々振廻可申と存候へ共、何かと延引今晚申請候、
渋谷角右、小出権太、志賀弥三左、杉田市郎左、中川七左、
垣屋十郎兵、天野七郎右也、野本幸嘉も内々振廻可申と存
候故、今日幸と一所ニ呼申候、八前より被参、夜之四過ニ
帰被申候

同四日

八前大雨、夜中も雨

同五日

朝五前ニ四時分迄雨

芦川甚五兵、戸田藤左、飯嶋五郎右、芦川甚五左、飯嶋熊
之助方を今晚振廻申候、五郎右馬内々見セ可申由被申ニ付、
今晚見申候我等馬共をも見セ申候、八時分ニ被参緩々と咄
被申、夜ノ四過ニ帰被申候

同六日

久々娘共ニ逢不申候ニ付、昼時分ニ宇右衛門所へ参、それ
ニ帶刀方へ参、それ宇治屋敷へ参、八過ニ帰宿

同七日

同八日

宰相様当月四日ニ江戸被遊御発駕筈ニ御座候由、去ル廿九
日之書状今晚到来

一権五郎今度部屋へ移徙いたし、為祝儀今日奥姉共権五郎ふ

るまい申候

同九日

御用之儀御座候而、今朝四時分ニ帶刀所へ寄合、昼時分ニ
帰宿

同十日

昼時分ニ吹上御屋敷へ致伺公首尾能御目見仕、それより下屋
敷へ参、夜ニ入帰宿

一今朝江戸へ替として坂本金右衛門歩行之者老人差越申候、

岸ノ屋敷ニはへ候万年茸、先月廿七日ニ取申候を此便ニ江
戸へ指上ケ申候

同十一日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候

一小笠原与左衛門母儀十三年忌ニ相当候ニ付、今朝大遠寺へ
為代参大多和治右衛門指遣、為香奠銀子貳枚遣申候

一正木五郎右衛門頃日相煩候ニ付、晩方見廻申候

同十二日 終日曇、暮前ニ雨

同十三日

八時分ニ吹上下屋敷へ参、夜ノ四過ニ帰宿

同十四日

同十五日

今朝五過ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申候

同十六日

八時分ニ宇治屋敷へ参、それより正木五郎右衛門気色見廻候
而帰宿

一蔭山宇右衛門、上海道を直ニ参、今七前ニ爰元へ参着、日
入ノ相前ニ私宅へも参対面申候

同十七日

今朝六半前ニ罷出、和歌へ致伺公、五半時分ニ帰宿仕候

一昼過ニ宇右衛門所へ見廻申候

一日ノ入相前ニ垣屋十郎兵衛、驚家より被罷帰候由ニ而、私宅
へも被参、相公様御意之段被申聞候

同十八日

宰相様夜前橋本ニ御一宿被遊、今日昼過ニ当地へ御着座被
遊候、拙者共今朝五前ニ宿罷出、太井ノ瀬迄御迎ニ罷出、
首尾能致御目見、大手之堤より御跡ニ付参、それより中之嶋通
御先へ参、一之橋へ被為入候時又致御目見、それより御供仕
御城へ罷上候処ニ、御前へ被召出しハし御意共御座候而、
八前ニ帰宿仕候

一宰相様御機嫌能御着座被遊候通、御城ニ而江戸へ之書状認差越申候

一御城へ被為入候節、一ノ橋前ニ而同姓権五郎も首尾能御目見仕候

同十九日

今朝五過ニ登城仕候、四時分ニ御座之間へ拙者共被召出しハらく御前ニ罷有候、其以後御広間迄出御被遊、何れも致御目見候、拙者共昼前ニ帰宿仕候

一相公様御機嫌能御着座被遊候、為御祝儀今朝御肴一種差上申候、女共も同一種指上申候

同廿日

今朝暁少之内大雨、又晩八時分も暮合迄雨

宰相様今朝五過ニ和歌御靈屋へ御参詣被遊、それら大智寺へ御参詣被成候、御長袴也

四過ニ御城へ被為入候、拙者儀今朝日ノ出時分ニ宿罷出、右御供相勤帰宿仕候

同廿一日

宰相様今朝六半過ニ養珠寺へ御参詣被遊候、御経三卷目也、例年殿様御代参御座候ニ付、帯刀拙者兩人支度仕、何れ成共御意次第ニ相勤可申由奉伺候処ニ、御名代之御拝并御は

いぜん拙者ニ相勤可申由被仰付候、就夫右相勤申候御時分之儀奉伺候処ニ、右何れも御先へ相勤可申由被仰付候故、

御本膳拙者奉備候、扱二之御膳宰相様御備被成候、三之御膳拙者奉備、御盃宰相様御備、御ちやうし拙者奉備、御湯宰相様御備、御菓子拙者奉備、御茶湯宰相様御備被成候、

扱追付御名代之御拝拙者相勤申候、しハし間を御置被成宰相様御焼香被遊候、扱四卷之御経相済候而妹背山へ御参詣被遊候、拙者儀養珠寺と致同道、御先へ伺公仕御名代之御

拝相勤申候、其以後宰相様御参詣被遊、御拝御焼香被遊候一妹背山も直ニ要行寺へ被為成候、御先へ帯刀致伺公御供相

勤申候、拙者義ハ又養珠寺へ致伺公、御はいせん自分ニ奉拝、扱長袴着かへ、半袴着御跡も要行寺へ伺公仕候、御石塔御拝相済御戻被為成候所へ致伺公、御目見仕候

一宰相様右何れも御長袴ニて御参詣被遊候、拙者儀今朝七時分ニおき候て支度仕罷出、養珠寺へ夜明ニ参着仕、右之通相勤四時分ニ帰宿仕候

一其以後養珠寺へ以使者ぶどう一折進申候

同廿二日

昼時分も雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ登城仕候

一宰相様昼前ニ北嶋之御涼所へ被為成候ニ付、御出以後帰宿仕候

同廿三日

今朝四前致登城、首尾好御目見仕、先日正木庄藏ニ御切米被下候、御札をも申上、昼前ニ帰宿仕候

同廿四日

夜半時分〆七時分迄雨

宰相様今朝五時分ニ大智寺へ御参詣被遊、それ〆要行寺へ御参詣被為成、四前ニ御城へ被為入候、拙者共今朝御先へ致伺公、御供相勤帰宿仕候

同廿五日

今朝四前ニ登城仕候

一宰相様四過ニ御城外へ被為成候ニ付、御出以後帰宿仕候
一拙者儀今朝五前ニ蓮心寺へ致参詣、追付帰宿仕候

同廿六日

今朝四前致登城、首尾能御目見仕、昼前ニ帰宿仕候

一今度吉見喜左衛門、遠藤兵右衛門、的場源四郎御差登セ、近日又罷下候ニ付、今晚右三人ふるまい申候

同廿七日

朝少雨

今日者帯刀も拙者も登城不仕候、今晚権五郎部屋ニ而帯刀

方、崇悦、五郎左、佐五右、宇右衛門、与左衛門、郷右衛門振廻申候、八時分ニ被参、七半時分ニ帰被申候、宇右衛門、与左衛門、郷右衛門などハ相残、緩々と咄、夜ニ入四時分ニ帰申候

一西門跡〆使者御座候而今日登城之由、帯刀拙者などへ何れも左右無之ニ付、不罷出候

同廿八日

今朝五半時分ニ登城仕候、追付御座之間ニ而致御目見候、其以後御表へ出御被遊、いつれも御目見御座候

一日門様〆御使者御座候而、雲蓋院同道ニ而被致登城候

一今朝垣屋十郎兵へ帯刀拙者物語申候ハ、昨日西門跡〆使者御座候由不存候故一人も不罷出候、重而ハか様之義八月番之者方へ御知セ可給候、当番之者一人成共、又ハ事ニより兩人成共可罷出候、昨日のことく不存候而一人も不罷出候へハ、宰相様思召之段迷惑仕候、当月ハ帯刀当番ニ而御座候、来月ハ長門守当番ニ而御座候、左様御心得可有よし物語仕候、其以後帯刀又十郎兵へ物語仕候ハ、宰相様御留守などニ使者又ハ御札衆など御座候とて、御知セ候事御無用ニ而候、右之段ハ宰相様御対面被遊候様成儀御座候時之事

ニ而御座候と、是又物語仕候

一右今日日門様^ら之御使者御座候ニ付、帶刀当番故御城ニ相殘、拙者などハ退出仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候也

一八時分ニ渋谷新休気色見廻ニ參候処ニ、先刻被相果候由、

渋谷市右、若尾友夢、江間与右ニ逢候而承、則八右、善入へも能様御心得給候様ニと申置候

同廿九日 七時分^ら時々小雨

宰相様今日も御城外へ被為成候由、拙者儀今日者登城不仕候、御礼衆御座候ニ付、帶刀ハ登城仕候由

一渋谷新休仕合ニ付、渋谷八右、江間与右衛門などへ見廻申候

同晦日 時々小雨、暮前^ら雨風

宰相様今日も御城外へ被為成候由、帶刀ハ今日も登城仕候由、拙者ハ不罷上候

九月朔日 時々雨

今朝五過ニ登城仕、御座之間ニ而首尾能致御目見候、其以後御表へ出御被遊、いづれも御目見御座候

一相模守殿^ら為使者山口多兵衛と申仁御越候、宰相様御機嫌

能御帰着被遊候、為御祝儀二種而樽并重陽之為御祝詞如御嘉例御小袖被進之、昼前ニ登城、則御振廻被下、其以後御

対面被遊御盃被下、其上ニ而御返事被仰聞、使者退出也、

当月者拙者当番故相詰罷有候、帶刀者四時分ニ帰宿仕候

一正木五郎右衛門気色しかと無御座段達御耳、今度長光様御下向之御供御免被成之旨被仰出、五郎右衛門替ニ志賀弥三

左衛門被仰付候、右御礼之段則菅沼半兵迄申達、乍此上何

とそ五郎右衛門御供仕候様ニと奉願候、何様其段追而貴殿迄五郎右衛門可申達由、言葉をのこし申候

一相模殿使者退出以後、追付御前へ拙者被召出、五郎右衛門煩故今度之御供御赦免被成之由、御懇ニ御意被成下候、則

御直ニも有増御礼申上候、其外御意共御座候而しはらく御

前ニ罷有、過分忝仕合共ニ而、昼過ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候

同二日

今朝日出時分ニ坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候

一長光院様為御門出、今巳ノ刻ニ加納五郎左衛門宿所へ被為成、追付御城へ被為入候、前方拙者共ニ誰も不被申聞候、

然共風説ニ承候ニ付、被為成候御跡ニ登城仕、菅沼半兵御用人衆へ御祝儀申達、御機嫌能被為入候を承、又小出権太へ御祝儀申達、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候

同三日

今朝六半過ニ寄合場へ罷出、四過ニ登城仕、昼時分ニ帰宿仕候、此以前も為差御用無之候へハ、寄合日ニハいづれも登城無之由候間、今日も延引可仕と申合候へ共、長光様少御風氣之由、寄合場へ伊達了念被申越候ニ付、右之通登城仕候

一正木五郎右衛門病氣故、今度之御供御免被下志賀弥三左衛門被仰付候ニ付、俄被參御大儀之由、又暇乞旁ニ今朝弥三左へ參、それと五郎右衛門所へも氣相見廻ニ立寄申候

一宰相様今日も御城外へ被為成候

同四日 七半時分も少つ、小雨

今朝四前致登城、長光様御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌昨日も弥能被為成御座之旨承候、其以後宰相様御前へ被召出、首尾能御目見仕候

一東門跡を為使者松井右近と申者被指越兩種進上也、昼前ニ

登城御対面被遊、御盃被下御返事被仰聞被為入候、其以後御振廻被下候、拙者儀御ふるまい出候而退出仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候

一水巻佐次右衛門、松坂郡奉行ニ被仰付候、西村清左衛門、浅井二郎左衛門ニ相加り、当免三人ニ而相定候様ニ可申渡由、將又浅井半右衛門儀京金奉行ニ被仰付候、木村五郎大夫、岸和田源大夫ニ差添相勤候様ニ可申渡之由、江戸へ申来候ニ付、宰相様達御耳、則今日右兩人ニ申渡候

同五日 朝五前ニ少雨、又夜中能ほと雨

今朝四前ニ致登城、先長光様御機嫌奉伺候処、夜中ハ御機嫌能被為成御座候へ共、今朝兩度御乳あまさせられ候由ニ御座候

一其以後宰相様御前へ被召出、首尾能御目見仕候

一要行寺御作事ニ付、物頭下村三大夫、御供番蜂谷市兵衛、御使役山田瀬左衛門、此三人奉行ニ被仰付候、御作事奉行粟生理右衛門、同丹羽武右衛門、尤相加り相談可仕由、十人組御目付西山善兵衛義、万事肝煎可申由、右之通江戸へ申来候ニ付、宰相様達御耳右六人ニ申渡候

同六日 晩方少々雨、夜半前も大雨

今朝四前ニ致登城、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、夜前に御機嫌能被為成御座候へ共、昼時に晩方迄御虫被為痛、其以後御機嫌能被成御座候由

一其以後宰相様御前へ被召出、首尾能致御目見、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

一あたごニ差置候拙者壺取ニ崎山理右衛門今日差登セ候、京都宇治へも用所申遣候

同七日

今朝四時分ニ登城仕、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、昨晚に打つ、き能被為成御座候由

一其以後宰相様御前へ被召出、首尾能致御目見、昼時分ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

同八日 昼時分に能ほと雨、終夜大雨

今朝四前ニ登城仕、先長光様御機嫌奉伺候処、御機嫌能被為成御座候由

一大殿様に如御嘉例、重陽之御祝儀宰相様へ被進候、御使小笠原与左衛門相勤申候、左京様も御祝義御進上被成候、

鈴木四郎兵へ相勤申候

一其以後御対面所へ出御被遊、本国寺に之使僧ニ御対面被遊候、拙者儀当番故相詰罷有候

一伊勢両宮御作事ニ付、如例年勢州大杉山に御村木出候ニ付、右為奉行浅井九左衛門被仰付候

一松下長大夫ニ於吹上西丸三九郎上ヶ屋敷近所ニ而御屋敷被下候、是又申渡候、右之御用仕廻候而拙者儀昼時分ニ帰宿仕候

一夜ニ入四前ニ水野対州に使者参候、口上ハ私義唯今爰元へ致参着候、先以宰相様御機嫌能被為成御座、乍恐目出度奉存候、今晚登城可仕候へ共、路次に少持病氣ニ御座候故致延引候、明日登城可仕候間、其節可得御意候、為御案内以使者申候由、就夫其以後右之口上を請、此方も使者指越候、右ハ今度宰相様御供ニ而勢州迄被参、それに直ニ新宮へ被参、只今当地へ参着也

同九日 終日終夜雨、但昼少之内止

今朝五時分ニ登城仕、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、夜前御乳あまさせられ、昨日之御大用之色おもハしく無之由

一其以後宰相様へ首尾能致御目見候、其後御広間迄出御被遊、

いづれも御目見御座候

一拙者儀御城へ罷出候跡ニ、水野対州私宅へ被参、昨晚以使
者申達候通爰元へ致参着候、宰相様御機嫌能御自分ニも御
息災ニ而目出度存候、為御届参候由被申置候由、右之通御
城へ申越承候、御城に罷帰候節、加納五郎左と致同道罷出
候処ニ五郎左も見廻被申候間、拙者も参候ハ、可致同道由
ニ候故、五郎左同道ニ而対州へ参候、御城に直ニ親類中へ
被参、留守故番之者ニ申置、又五郎左同道ニ而帯刀方へも
参候、其節ハ帯刀私宅へ被参、留守ニ候故番之者ニ申置候、
五郎左帯刀内へも見廻被申候ニ付、又致同道娘所へも立寄、
それら令帰宿候

同十日 終日雨、夜中小雨

今朝四前ニ登城仕、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、今夜中御
機嫌能被為成御坐候由、御大用之色もなをり申候由、然共
今朝も御氣をもニ被為見候由

一其以後宰相様へ首尾好致御目見、しはらく御前ニ罷有、昼
前ニ帰宿仕候

一其前方志賀弥三左衛門を以帯刀五郎左衛門拙者ニ被仰聞候
ハ、長光様内々今日爰元御立被成候様ニと被為思召候へ共、

未御氣色透と無御座候間、二三日も御見合可被遊と被思召
之旨被仰聞候、拙者共御請ニハ乍恐御尤至極奉存候、如何
ニも緩々と御養生被遊、御氣色すきと御本腹被為成候而之
上、御発駕可然乍憚奉存之旨申上候

一宰相様今日者御城外へ被為成候由
一娘共昨日に参、今晚もと申候

同十一日 終日曇、時々雨、終夜雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、それら直ニ四時分ニ登城仕、先
長光様御機嫌奉伺候処、夜中今朝迄御機嫌打続能被為成御
座候由

一其以後宰相様へ首尾能致御目見、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

同十二日 終日終夜能ほとノ雨

今朝四前致登城、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、昨夜中少つ、
御乳あまさせられ、少御おびる被成候由、今朝も御氣をも
ニ被為見候由

一其以後宰相様御前へ被召出しはらく罷有候、扱帯刀致同道
退出可仕と致候所へ、対馬守登城仕御前へ罷出候、其内帯
刀ハ退出仕候、拙者ハ跡ニ相残り、対馬退出以後五郎左致

同道、御城を罷出帰宿仕候、其以後承候へハ対馬ハ拙者共
ハ跡ニ退出仕候由、長光様御機嫌為伺御用人衆之部屋か御
台所へ参罷有候哉、我等共ニハ致暇乞先へ罷出候つる

一 今七前ニ河鳴式右衛門者之由ニ而我等門番へ参、対馬殿ハ
是へ御見廻候つる哉と相尋候由、就夫番之者申候ハ、此節
句ニ長門所へ御見廻候つるとあいさつ仕候由

同十三日

終日雨、昼時分ハ七時分迄能ほと風吹、
夜半時分迄雨

今朝四前ニ致登城、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、夜前ハ別
而御機嫌能被為成御座候よし

一 其以後宰相様御前へ被召出、首尾能致御目見、昼前ニ帰宿
仕候

同十四日

今朝四前ニ致登城、先長光様為可奉伺御機嫌、御用人衆之
部屋へ参候処ニ、長光様右之所ニ被成御座、則致御目見候、
今日ハはや常之御機嫌ニ而被為成御坐候と、何れも被申候
故目出度奉存之旨申上候

一 其以後宰相様御前へ被召出、しハし罷有、昼前ニ帰宿仕候
一 宰相様今日ハ御城外へ被為成候由

一 宰相様へ為上使町野壱岐守殿当月七日ニ被仰付候旨、今朝

江戸ハ書状到来

一 崎山理右衛門壺共持参いたし、今八時分ニ京都より罷帰候

同十五日

今朝五過ニ致登城、先長光様御機嫌奉伺候処ニ、弥御機嫌
能被為成御座之由

一 其以後宰相様御前へ被召出、首尾能御目見仕候、但帶刀拙
者兩人罷出候、扱御表へ出御被遊、何れも御目見御坐候、
対馬守、五郎左衛門ハ御表ハ被為入候刻罷出致御目見候、
それハ帶刀、対馬ハ退出仕候、五郎左衛門、拙者ハ跡ハ退
出仕候

同十六日

正木左近殿去ル六日之夜死去之由、今朝江戸ハ申来候ニ付、
拙者儀登城不仕候

一 右之通宰相様達御耳為御使者の場郷左衛門方被成下候、右
為御礼何れも迄先以使者成共申達度存候へ共、忌中如何と
存何れもへ御心得給候様ニと、岡野平太方へ為使佐谷平左
衛門差越申候

同十七日

拙者儀忌中故不罷出候

同十八日

拙者儀今日も不罷出候

同十九日

昨日同断

一 今度我等指合ニ付、水野対州に使者一昨日被指越候ニ付、
今日此方にも使者越申候

同廿日

終日曇、八半時分も能程ノ雨、終夜雨

昨日之通

同廿一日

昨日之通

一 正木左近相果候義達御耳、原田市十、加納平次右に忝御意
之段被申聞候、去十二日之状今朝到来

一 左京様も右之義ニ付忝御意之段、菅沼九兵に被申聞候

右之御請忌中故不得申上候ニ付、飯嶋五郎右に右之状被相
届候故五郎右に拙者忝かり候段、御札之義ハ追而可申上之
旨右三人之衆へ被申越給候様ニと、小林佐次兵衛為使頼入
候

同廿二日

長光様今昼前ニ当地御発駕被遊江戸御下向被為成候、布施

佐五右衛門、志賀弥三左衛門、杉田市郎左衛門御供也、今

晩ハ山口ニ御一宿被遊候、帯刀ハ山口迄致伺公候、拙者儀
尤今日も不罷出候

同廿三日

夜半過ニ雨

昼時分ニ宇治屋敷へ参、赤松ほらせ七過ニ帰宿

一 右留守之内水野対州に使者参候、口上ハ私義昨晩野川迄参、
今朝野川罷立、長光様御機嫌能御供仕罷下候、昨日御暇被
下候節以参御暇乞可申達候へ共、御自分にも御忌中ニ御座
候故、乍自由致延引候、為御暇乞以使申達候由、就夫右使
者之所迄使指越候、返事ニハ先刻為使者被参候得共、令他
行不能即答候、昨晩野川迄御越、今朝長光様御機嫌能御供
被成候由目出度存候、被入御念御使忝存候由能様心得被申
候様ニと申越候

同廿四日

拙者儀今日も不罷出候処ニ、八過ニ忌御免被為成候間、昨
日ハ罷出候様ニと宰相様御意之旨、菅沼半兵に被申聞候ニ
付、奉畏之旨半兵迄申上候

同廿五日

今朝六半時分ニ蓮心寺へ致参詣、五時分ニ帰宿仕候

一宰相様と拙者忌昨日御免被成候ニ付、今朝四前ニ登城仕首尾能致御目見、右之御礼先日御使者被成下候御礼申上、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日御城外へ被為成候、但太井ノ瀬迄之道筋掃除等御覽被為成候由

同廿六日

今朝四前ニ登城仕、追付致御目見しハし御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

一上使町野老岐守殿今晚山中ニ御泊、夜半ニ彼地御立之由申来候ニ付、拙者儀為御迎夜ノ五時分ニ罷出山口へ参候、八前ニ上使山口へ御着、如例町迄罷出御殿へ之致御案内、御振廻出し御酒出時分ニ山口を罷出、七過ニ帰宿仕候

同廿七日

卯ノ刻ニ帯刀所へ参、上使御着を待請申候

一宰相様八間屋迄御迎ニ御出被為成、それと上使帯刀所へ御着被成候ハ、則帯刀所へも被為成上使へ御対面被遊候
一五時分ニ上使御城へ御出被為成候、御馳走如例首尾能相済、四過ニ帯刀所へ御もどり被成候、其節為御使以奥津十右衛

門折被遣候、則其折御ひらき候て、其上御酒出追付帯刀所御出候、それと拙者共御城へ罷上り、今日之御祝義申上帰宿仕候、其節ハはや宰相様為御送御出被為成候故、御用人衆へ御祝義申達候

一上使御立之節為御礼拙者共方へも使者御越候、其節登城仕御返事不申候ニ付、山中迄以使者御返事旁申進肴一種進申候、老岐守殿ハ斎藤源藏親類其上御親父佐渡守殿定鑑と御咄候由、旁由緒有之ニ付、右之通也

一今日御拝領被遊候御樽肴明朝御披キ被為成候間、拙者共も罷上り頂戴可仕旨御意之由、菅沼半兵、渋谷角右と被申聞候ニ付、則為御礼致登城、奥津十右、中川七左ニ御礼申達帰宿仕候

一帯刀ハ上使御宿仕候ニ付、今朝御迎ニハ不罷出、為御送山口迄参候

同廿八日

昨日上使ニ而御拝領被遊候御樽肴今朝御披キ被為成候ニ付而、五時分ニ致登城候処ニ、御前ニ而御酒御肴頂戴仕候、御肴ハ御自身御はさミ被下候、帯刀、拙者、平右衛門、五郎左衛門、了二、崇悦、十休也、其外御城代番頭奉行御近

習衆御前ニ而、御酒御肴頂戴仕候

一其以後御広間へ出御被遊、昨日御拝領之御樽肴御披キ被成候間、何れも頂戴仕候様ニと被仰聞被為入候、扱如例何れも諸士御酒御肴頂戴仕候、帯刀拙者御広間ニ罷有相濟候、以後何れも忝奉存候旨津田治兵衛を以申上候処ニ、御機嫌ニ被為思召之旨被仰聞退出仕候

一今朝榮雲を呼候て、拙者壺之口切御茶ニ御肴相添御城へ拙者持参仕、垣屋十郎兵衛を以差上申候、帯刀ハ一昨日御茶指上申候、上使之御宿仕候ニ付、御馳走之茶入申候故、先一昨日差上申候

一書院之わき小座敷之作事、今朝始申候

同廿九日

今朝四前ニ致登城候処ニ、頓而御前へ被召出、首尾能御目見仕候、昨日ハ拙者壺之口切御茶指上申候儀なと被仰出、過分忝御意共ニ而しハし御前ニ罷有候、帯刀ハ少風氣故今日者不罷出候

一其以後御対面所へ出御被遊、牛滝山之出家被致御目見候、尤其節御前ニ拙者罷有候、然所ニ菅沼半兵衛を以被仰聞候ハ、か様之輕キ御礼衆御坐候節なとハ、拙者式罷出候ニも不及

候との忝御意御座候、誠以冥加至極成仕合奉存候、然共先日より何れもへ申達候通、誰ニ不寄御対面被遊候衆御坐候節ハ、帯刀拙者兩人之内セめて一人ハ罷出候か、拙者共自分之勤ニ而御座候間、以来とも左様御心得給候様ニと申談候

一宰相様今日ハ御城外へ被為成候由

十月朔日 当月ハ帯刀当番也

今朝五過ニ登城仕候処ニ、頓而御前へ被召出、首尾能御目見候、其以後御表へ出御被遊、何れも御目見御座候一堺かさりや藤左衛門夜前爰元へ罷越、今日宰相様へ始而致御目見候、則今晚私宅ニ而ふるまい申候

一宰相様今日も御城外へ被為成候

同二日

今朝日ノ出時分ニ宿罷出坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候一四前ニ登城仕、頓而御前へ被召出、首尾能致御目見、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

一当月ハ慈服大師御消月ニ而候間、和歌大師堂へ今日ハ参詣

仕候か又ハ代参成共差上申度存候へ共、拙者忌中故彼地へハ致遠慮延引仕候

同三日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候、今日ハ何れも申合登城不仕候、其以後宇治屋敷へ参、八過ニ帰宿

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

同四日

今朝四前ニ致登城奉伺御用共御座候而、帶刀、五郎左衛門、拙者、奉行衆三人、九鬼半右衛門、御前へ被召出しハし罷有、昼過ニ退出仕候

一先日御壺之御口被為切大殿様へ御上ケ被為成候、就夫明日始而御茶可被召上候間、明朝罷出致頂戴候様ニと今朝被仰出、帶刀、平右衛門、五郎左衛門、拙者則御礼申上、其以後右之御用被仰付候

一今晚御いのこにて日暮候而致登城、四前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

同五日 昼前も少つ、雨

今朝五前ニ致登城追付御料理被下、其以後御前へ被召出御茶被召上、其御なかれ何れも頂戴仕候、其節白之大鷹之木

形いづれもニ御見セ被為成候、帶刀、平右衛門、五郎左衛門、了二、崇悦、十休、勘八、拙者八人也、了念も御加被為成候

一御前退出、其儘帶刀、平右衛門、五郎左衛門致同道私宅へ参、扱追付右之衆同道にて登城仕、菅沼半兵其外御用人衆へ今朝之御礼申上、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候也

同六日

今朝四前ニ登城仕、頓而致御目見しハし御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候よし

同七日

今朝四時分ニ登城仕、頓而致御目見しハし御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

同八日

今朝四前ニ登城仕、頓而致御目見しハし御前ニ罷有、昼前ニ退出仕候、御城も直ニ松平六郎兵へ病氣見廻ニ参、それより吹上下屋敷へ参、それら安藤崇悦昨日孫もつけられ候、

悦ニ見廻帰宿

同九日

今朝四時分ニ致登城、頓而御目見仕、しハし御前ニ罷有候、
正木五郎右衛門頃日又気色指発候義達御耳、忝御意共ニ而
昼前ニ退出仕、追付五郎右衛門所へ参、右御意之段申聞候

同十日

宰相様御汲湯など可被遊との御儀ニ而、今朝五過ニ爰元御
出船被遊、はしかミへ被為成候、就夫六半過ニ致登城候、
御立以後右之通江戸へ申上候、書状認四前ニ帰宿仕候
一宰相様御機嫌為伺御用人衆迄以飛札御肴一種差上申候

同十一日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿、戻ニ宇右衛門所へ
立寄申候

一昼時分ニ帯刀内へ見廻、夫々宇治屋敷へ参、七時分ニ帰宿

同十二日

同十三日

同十四日

昼時分ニ宿罷出磯脇へ見廻、夜ノ五時分帰宿、布施庄三郎
召連候

同十五日 暁雨、晚七時分迄

今朝五過ニ表へ出、見廻衆ニ逢申候

一今昼時分ニかこい之柱立仕候

一今日者娘とも参候

同十六日

蜂須賀千松殿も不相替国元ニ而留候網懸之鶴五居、為使者
宮川隼之丞と申者を以進上、則今晚私宅ニ而請取使者をも
ふるまい申候、我等へも同二居不相替給候、書状而通御越
候、一通ハ御鷹進上之義、一通ハ私へ同給候との状也

同十七日

拙者儀未服之内ニ而御坐候故、今日ハ和歌へ伺公不仕候

同十八日

波多野玄等頃日京都も参候、今度隠元禅師之腫物なをし候
ニ付、禅師も墨跡もらい候由ニ而、去十五日私宅へ持参候
而我等ニくれ候へ共、玄等家之いんげんニ可成物ニ而候故、
其断申今朝みよを以返し候

同十九日

宰相様御機嫌能、今晚日入相ニはしかミより御船ニ而御戻
被為成候、其前方拙者共登城仕、入御之刻首尾能致御目見、

しハし御前ニ罷有退出仕候

同廿日 朝少雨

今朝六半時分ニ宿罷出、和歌へ参御供相勤、昼前ニ帰宿仕候

同廿一日

今朝六半時分ニ宿罷出、養珠寺へ伺公仕御供相勤申候、但先年と相公様ニハ正五九月斗妹背山へハ御参詣被遊、毎月ハ御参詣無御座由、就夫養珠寺より直ニ御帰被為成候

一先月者拙者儀差合故、養珠寺へも伺公不仕候ニ付、御跡ニ相残り妹背山へも致参詣、四過ニ帰宿仕候

同廿二日

今日者日法十三年忌ニ相当候ニ付、於坂田法事執行仕候、就夫権五郎為致参詣候、我等ハ参不申候、昨晚と持病氣ニ而御坐候由、帯刀五郎左方へ今朝使指越、寄合場へも不罷出候

同廿三日

今朝四前ニ致登城、頓而御目見仕候処ニ、正木五郎右衛門氣色又再発いたし候よし、如何有之候哉と忝御意御座候ニ付、昨晚と少得快氣申候由申上、御城と五郎右衛門所へ参

右之段申聞、セかれを御礼ニ指上させ、昼前ニ帰宿仕候

一松平源無昨夜四時分ニ相果候由今朝承候ニ付、三郎兵衛所へ見廻申候

同廿四日

今朝六半時分ニ大智寺へ致伺公、要行寺へも御供相勤、四前ニ帰宿仕候

同廿五日

今朝六半前ニ蓮心寺へ致参詣候

一今日者登城不仕候、帯刀、五郎左衛門も不罷出候由

一八時分ニ養珠寺へ振廻ニ参、夜半前ニ帰宿仕候、五郎左、了二、宇右衛門、源藏、海安相客也

同廿六日

今朝四前ニ致登城、首尾能御目見仕候、明日御馬共御見セ可被為成由、奥津十右衛門を以被仰聞、昼前ニ帰宿仕候
一宰相様今日御城外へ被為成候由

同廿七日

長光様道中御機嫌能、去十九日酉ノ刻御着被遊候由今朝申来候ニ付登城仕、右御祝儀申上候

一昨日被仰出候通、今朝四時分ニおいまハし馬場ニ而、御馬

共御見セ被為成候、御城より直ニ御先ニ馬場へ罷出、御馬共見物仕昼前ニ帰宿仕候、右御馬ハ外山栗毛、更科栗毛、達先黒毛、初沢栗毛、小室川原毛、棹山黒毛、松白栗毛、以上七疋也

同廿八日

今朝五過ニ致登城、追付御前へ被召出、首尾能致御目見候、其以後御表へ出御被遊、何れも御目見御座候而、四過ニ帰宿仕候

一宰相様今日も御城外へ被為成候由

一我等自分之足輕、今夜四過ニ於吹上辻切ニ逢申候、然共其身申通ハ首尾能有之由

同廿九日

内々今日ハ登城仕間布由仲間申合候へ共、後藤治左衛門昨夜当地へ参着仕、昼時分ニ宰相様へ初而御目見仕候、就夫我等致同道罷出候処ニ、先御座之間へ拙者被召出、シハシ御前ニ罷有、其以後御城外へ御出之刻、治左衛門御目見仕候

一今晚於宇治屋敷治左衛門振廻申候、上屋敷ニハ少作事仕候ニ付而也、海安老、源藏方、権十、太左、孫兵相客也、長

斎、永庵、庄三郎も参候、八過ニ何れも被参、夜ノ五過ニ被帰候

一夜前之足輕之義、今朝加五郎左へ以治右衛門申遣候、其以後奉行衆、町奉行衆、御目付中へも右之通以使者申越候

十一月朔日 夜半前ニ少雨

今朝五過ニ致登城、追付御目見仕候、其以後御表へ出御被遊、何れも御目見御座候而、四過ニ帰宿仕候、当月ハ拙者当番也

同二日 夜ニ入風吹

今日ハ御用も無御座候故、何れも申合登城不仕候

一今朝六半前ニ坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候

一昼時分ニ松平三郎兵所へ見廻、それハ吹上下屋敷へ参、八時分ニ帰宿

一今夜四時分ニ上様ハ宰相様へ被進候御鷹之鶴参着、則飯嶋五郎右衛門帶刀所へ持参、是ハ御奉書之名付安藤帶刀と有之ニ付右之通也、然共帶刀御用人衆迄申達候様ニと申由ニ而、五郎右衛門御城へ持参、拙者所へも前方申越候ニ付、致支度相待五郎右衛門と一所ニ御城へ罷上り候、追付戸田

藤左衛門、岡部太郎兵衛罷上り候、頓而宰相様御座候間迄、御出鶴御頂戴奉書御披見被遊候、其節拙者被召出候、其以後三人之奉行衆をも被召出退出之刻、帶刀ニハ御玄關前ニ而拙者逢申、帰宿仕候

同三日 時々雨、風吹

今朝五前ニ寄合場へ罷出、直ニ四過ニ御城へ罷上り、昨晚御鷹之鶴御拝領之御祝儀菅沼半兵迄申達、頓而帰宿仕候、帶刀五郎左衛門同前也

一宰相様今日御城外へ被為成候由

一後藤治左衛門明日罷上候ニ付、今晚吹上下屋敷にて振廻申候、八時分ニ参、夜ノ四過ニ罷帰候

同四日

今朝四前ニ致登城、頓而御目見仕、昼時分ニ帰宿仕候

一遠山七左衛門儀、願之通法鉢御免被成候由江戸より申来、今日於御城拙者申渡候

同五日

宰相様今朝五過ニ御舟ニ而はしかミへ被為成候、拙者共其前方致登城、御立以後退出仕候

一今晚八時分ニ蔭山宇右衛門所へ口切旁振廻ニ参候、権五郎

梅松も始而振廻ニ参候、何れも不断咄候衆相客ニ而緩々と語、夜ノ四過ニ帰宿仕候

同六日

同七日 晩方少々雨、少風

正木左近殿名目ニ而候故、今朝坂田へ致参詣候内々とく参詣可仕と存候へ共、少子細有之而延引今日致参詣、五過ニ帰宿

一森角左衛門セかれ持不申候ニ付、長尾与六右衛門末子を養子ニ可仕と奉願候段達御耳、願之通養子ニいたし候様ニと被仰出候ニ付、角左衛門、与六右衛門今日四過ニ私宅へ呼候て、右之段申渡候、例之通番頭衆、奉行衆、御用人衆、御目付衆、其外も私宅へ呼申候

一大久保宗随今日被致死去候由、晩方承候ニ付、則子息新兵へ見廻申候

一水野対州より如例年知行所ニ而留候初鯨今日給候

同八日

小栗新助召仕之者上方より参候、きぬ屋之きぬをかりこと申取候、其儀ニ付今朝四過ニ加五郎左、飯嶋五郎右、九鬼半右、御目付柴田四郎兵、海野縫右被参様子申渡候、右新助

ハ桑山二郎右組ニ而、二郎右江戸ニ有之候内、蔭山宇右衛門肝煎候ニ付、右之段宇右衛門承何れもへ申達候故、宇右衛門も今日寄合申候

一水野民部殿ハ如例年御た、ミの表進上、就夫我等へも如例数寄屋表給候

同九日 終日曇、夜半過り能ほと雨

正木左近殿為御形見我等へ被下候脇指、正木甚五兵衛書状相添今日到来

同十日

今晚八時分ニ小笠原与左へ我等権五郎振舞ニ参、緩々と咄、夜ノ五半時分ニ帰宿、権五郎ハ先へ帰候、宇右衛門、海安、権十相客也

同十一日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿

同十二日 終日風吹、八時分ニ少雪

今晚八時分ニ帯刀方へ振廻ニ参、暮合ニ帰宿、是ハ当年之口切又ハ今日彦兵衛髪置之祝儀也、権五郎も参候、右為祝儀今朝帯刀方へ為使大多和治右衛門を以祝儀物遣候、今晚之相客ハ五郎左、崇悦、了念、了二、十休、宇右衛門也、

其外勝手衆数多有之也

同十三日

松平九郎左方、近日江戸へ被罷下候為暇乞私宅へ被参候ニ付、頼入候ハ宰相様御国ニ被成御座候節ハ、拙者儀大方江戸へ致御供罷越有合不申候、左候へハ帯刀対馬などハ御国ニ而御成仕らせ、拙者ハ右之仕合故御国ニ而御成仕たる儀終無御座候、先年か様ニ屋敷余多致拝領、御影ニ而作事仕候ニ付、大殿様ニハ御腰被為懸候、就夫左京様ニも被為成候、然所ニ宰相様御成之義、少不申上儀も如何ニ御座候、併最早家も古び申、何之風情も無之所へ御腰被為懸候様ニなど、ハ難申上儀ニ御座候、乍去兎角を不申上罷有候儀も、又如何ニも可有御座候哉、とかく来正月迄ハ相公様御服之内ニ而御坐候へハ、か様之儀可申出様も無御座候、自然相公様御参勤来春二三月時分ニ而も可有御座御様子ニ而御座候ハ、二月へ入候と、何とそ御鷹野ニ被為成候節など冥加之為ニも御座候間、そと御腰をも被為懸候様ニ奉願旨昔沼半兵衛、渋谷角右など迄も申達可然御座候ハん哉、此段難弁奉存候、とかく大殿様不奉伺御内意候へハ、此方ニ而相公様へ可申上様無御座候間、右之通不苦儀と思召候ハ、

少被得御内意可給候、此段於江戸市十、平次右へも御相談候而可然様ニと九郎左へ頼申候、九郎左も尤之儀ニ候、市十、平次右と申談、江戸の様子可被申聞由あいさつ也

同十四日

殿様御機嫌弥能被為成御座、去五日御登城被成候様、首尾能御目見被遊、殊御鷹場へ之御暇被進之旨今日申来、則江戸何れも迄書状越申候

一書院之わきかこい出来候而、今朝子とも寄合食給茶のミ申候

同十五日

今朝も新小座敷ニ而茶をのミ、四前より小書院へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申候

一福岡太郎八久々私宅へ不被参候間、少見物被申度由内々以海安被申候ニ付、今晚被参候様ニと致約束、今八時分ニ被参小座敷ニ而料理出し茶をも振廻、それより小書院ニ而緩々と咄、夜ノ四半時分ニ被罷帰候、海安老、源藏方相客也、権十、永庵など呼申候、振廻過候而宇右衛門見廻語申候、其以後太左も参候

同十六日

今朝も小座敷ニ而茶をのミ、四前ニ寄合場へ罷出、何れも御切米取衆之手形判形仕、昼過ニ帰宿仕候、但判形ハ四時分ニおし始、昼時分ニ仕廻申候

一今夜半前ニ江戸より飛脚到来、左京様ノ御奥様当月八日之夜、御平座御姫様御誕生之由申来

同十七日

御用御座候而昼時分ニ帯刀、五郎左、奉行衆三人私宅へ寄合申候

一拙者儀未服之内ニ而候故、今日も和歌へ伺公不仕候

同十八日

今晚帯刀方、五郎左方、了二老、宗悦老、了念老、十休老振廻申候、但口切振廻ニ而候へ共、彦兵衛髪置之祝儀も有之ニ付、書院ニ而振廻出し候、御役者市兵衛其外うたひ候もの式人、帯刀所ニ而のことく呼候て、盃之上ニうたわセ候、食過候而小座敷ニ而茶をたて申候、勝手ニ宇右衛門、与左衛門、真鍋五郎右衛門、勘三郎、海安、権十など被参候、何れも八時分ニ被参、暮合ニ帰被申候、勝手衆ハ跡ニ被残、五過ニ帰被申候

同十九日

宰相様今朝四前ニはしかミ御船ニ而御戻被為成候、拙者共御着以後致登城首尾能御目見仕、昼時分ニ帰宿仕候

一松平九郎左とく江戸へ被罷下筈ニ候へ共、宰相様御帰城被遊御目見いたし、御用も御座候哉奉伺、可罷立由ニ而今日迄延引、就夫今晚又為暇乞私宅へ被参被申置被罷帰候ニ付、

以佐谷勘兵衛右之礼暇乞旁申越候、其次而ニ先日御直談ニ頼入候義、弥無御矢念様ニと申越候、相心得候由返事也

一今晚斎藤大吉祝言首尾能相済候、就夫佐谷平左衛門遣し付置候

同廿日

宰相様今朝例之御時分和歌御靈屋へ御参詣被遊候、拙者儀少持病差発候故、今日者御供不仕候

一松平九郎左、今朝爰元発足之由

同廿一日

今朝六半前ニ宿罷出、養珠寺へ致伺公御供相勤、四過ニ帰宿仕候

同廿二日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候

一今朝斎藤大吉夫婦へ柳樽一荷肴一種つ、源蔵方へ肴一種

遣候、使多賀長兵衛右之節大吉方も為祝儀私等方へ以使肴肴一種越被申候、志賀弥三左、大吉、おばた、右為祝儀肴一種つ、遣候、使石橋市左衛門也

同廿三日

今朝四前ニ致登城御用共御座候而、しハし御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一八時分ニ宇治屋敷へ参、日暮候而帰宿

同廿四日

今朝六半時分ニ大智寺へ伺公仕、御参詣之御供相勤、それより要行寺へも致御供、四前ニ帰宿仕候

一少御用御座候而昼前ニ致登城、追付帰宿仕候

同廿五日

今朝蓮心寺へ致参詣、五時分ニ帰宿仕候

一四時分ニ登城仕、橋本勘太郎岩手御代官御免被遊候儀、本間彦十郎儀勘太郎跡役岩手御代官被仰付候旨、山路権三郎伏見御屋敷御留守居役御免被成候儀、権三郎跡役曾根久五郎被仰付之旨申渡候

一今晚養珠寺、蓮心寺、良田庵私宅ニ而振廻申候、但小座敷ニ而食出し茶たて申候、昼過ニ被参、夜ノ五過ニ帰被申候

同廿六日 終日風吹、夜半過る能ほとノ雨

今朝宇治屋敷へ参、しゆる三本植候而、四時分ニ帰宿

一今晚宇右、与左、平太、五郎右、勘三、喜兵衛振廻申候、
但当年口切之茶ふるまい也

同廿七日

今朝四前ニ致登城候処ニ、先日御拝領被遊候御鷹之鶴、包

丁御覽被遊候所へ被召出、明日御頂戴可被遊候間、何れも
罷出候様ニと御直ニ御意被為成、昼前ニ帰宿仕候

一佐治茂左衛門、同弥五兵衛閉門被仰付候義、今日御城ニ而

野口長兵衛、柴田四郎兵衛、大石与五右衛門ニ申渡候

同廿八日 冬至、時々雪

今朝五時分ニ登城仕候、四時分ニ御拝領之御鷹之鶴御料理

被仰付御頂戴被遊候、其節御前へ拙者共其外何れも被召出、

御鷹之鶴頂戴仕御酒被下候、其以後御表へ御出被為成、右

御鷹之鶴何れも頂戴いたし候様ニと諸書ニ被仰聞被為入

候、扱如例御広間ニ而御鷹之鶴何れも頂戴御酒被下退出仕

候、相済候迄拙者共御広間ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

同廿九日

今朝四時分ニ致登城御用之儀共奉伺、八前ニ帰宿仕候、御

分国中ニ而も酒造り候儀、例年之半分つゝ、造り候様ニとの
義も今日被仰出候

一今晚同名勘三郎所へ振廻ニ参候、七前ニ参、夜ニ入四過ニ
帰宿仕候、宇右衛門、与左衛門、海安、権十、孫兵衛相客也、
其外勝手ニ一門之衆有之

同晦日

昨日之御用之義ニ付、今朝四時分ニ帯刀、五郎左、奉行衆、
町奉行衆私宅へ寄合、昼時分ニ退出也、就夫今日ハ何れも
登城不仕候

十二月朔日

今朝五過ニ登城仕、頓而御座之間ニ而首尾能致御目見候、
それら御表へ出御被遊、何れも御目見御座候而被為入候、
拙者共四過ニ帰宿仕候、当月ハ帯刀当番也

同二日 夜中ハ朝五時分迄雨、又暮前ハ少雨

今朝日之出時分ニ坂田へ致参詣、五半時分ニ帰宿仕候

一御用御座候而、昼前ハ加納五郎左衛門私宅へ寄合、八時分
ニ退出、蔭山宇右衛門をも呼御用相達候、就夫今日ハ登城
不仕候

同三日 晩方少々雪

今朝五前ニ寄合場へ罷出、公事なと有之、昼時分ニ帰宿仕候

一寄合場ニ加納五郎左致同道私宅へ参、御用相達、七過ニ五郎左帰被申候、其内蔭山宇右衛門をも呼、御用相達候

一今朝坂田了法寺へ為使大多和治右衛門指越候、秋田伊右衛門、松田見与をも相添越申候、是ハ了法寺之法儀改天台宗ニ可仕旨申越候、口上ハ不受不施之法儀取分、我等なと之様成ものたまちかたき事ニ候へハ、内々とくより存寄候へ共、先一日くくと暮候、今程了法寺なとハ別成義も無之様ニ被申候へ共、何と哉覽とかく往々之義無心元存候、尤左様之節迄ハ相待見可申候へ共、其期ニ至而俄改候儀結局如何候間、只今宗門改可申と存候、左候ハ、旁由緒共有之候間、天台宗ニ改、則雲蓋院之御末寺ニ可仕と存候、貴坊義来春ハ関東へ御下り候はん由、幸之義ニ候間、寒氣ニハ候へ共、年内御下り尤候、左候ハ、追付宗門改可申候、若貴坊天台宗ニ御成候而、其儘住寺可被致と被存候ハ、一段之義と存事候旨申越候處、一々得其意尤被存候由、左候ハ、追付寺を明、勝手次第関東へ可罷下由返事也

同四日

今朝四時分ニ致登城、昨日寄合ニ而承候公事其外御用共奉伺、昼過ニ退出仕候

同五日

今晚曾根孫太、村上与兵、伊藤又兵、岡部太郎兵、戸田藤左、福岡太郎八方振廻申候、何れも八前ニ被参、七過ニ帰被申候

同六日 終日雪ふる、一寸ほとつもる

今晚渋谷市右、野口長兵、竹本丹後振廻申候、福岡太郎八方今晚も被参候、何れも八時分ニ被参、日くれ時分ニ帰被申候

同七日 時々少つ、雪

今朝五時分ニ加納五郎左致同道、雲蓋院へ参、坂田了法寺之法義御宗門ニ改、すなわち雲蓋院之御末寺ニ仕度存候間、左様御心得被成、万事頼入候由申達候、其外委細物語仕候處ニ尤之由、雲蓋院結構成あいさつにて退出仕、それより養珠寺へ参、右之通雲蓋院へ申達候由物語仕罷帰候、五郎左ハ直ニ帰宿被申候、拙者ハ吹上下屋敷へ寄申候處ニ、其内はや雲蓋院私宅へ御出候由申来候、留守故早々御帰候ニ

付、則以使御者御礼申越候

同八日

今朝四時分ニ致登城、首尾能御目見仕、しハし御前ニ罷有、
昼時分ニ帰宿仕候

一宰相様来年御下向御時分之義、閏二月中ニ相究候由、今朝
被仰聞候

一当正月之御礼御名代為御使朝比奈惣左衛門今日被仰付候、
来ル十二三日頃ニ罷立筈

一宰相様来春御下向之御供渋谷八右衛門被仰付候、御在府中
渋谷角右衛門同前ニ御用相達可申由被仰付候、右ニケ条帶
刀申渡候

一今日向日了二、成田庄次、飯嶋五郎右、右三人へ為使小林
佐次兵衛遣候、是ハ坂田之寺宗門改候ニ付而也

一今朝了法寺へ暇乞之為使大多和治右衛門指越、銀子五枚遣
候、八時分ニ了法寺為暇乞私宅へ被参、今朝之礼をも被申
候、則対面いたし、しハし語候而かへし候

同九日 時々少雪

今朝四時分ニ致登城、頓而首尾能御目見仕、昼時分ニ帰宿
仕候

一跡目被仰付候者共、帶刀申渡候

一今朝良田庵蓮心寺へ為使小林佐次兵衛遣候、昨日了二、庄
次、五郎右へ申遣候儀也

一今晚了二、庄次私宅へ被参、緩々と咄、昨日佐次兵衛ニ申
越候通委物語仕、雲蓋院へ申候儀万事庄次を頼申候

一大坂町屋去ル七日八日九日大火事之由、今晚丹羽長兵衛、
猪飼二郎助方ニ奉行衆迄申来

同十日

今日ハ御用も無御座候間、登城延引可仕と何れも申合候へ
共、去七日八日迄大坂町屋夥敷火事之由申来候ニ付、致
登城御用人衆ニ逢申、早速帰宿仕候

一昨夜了二、庄次へ物語仕候通、今朝雲蓋院へ被申候由にて、
右御兩人私宅へ被参、万事首尾調候段被申聞候、就夫来ル
十二日三日吉田之由、雲蓋院御申候由ニ付、則十二日ニハ
雲蓋院へ拙者伺可仕候、十三日ニハ雲蓋院私宅へ御出被
成候様ニと、是又御兩人頼入候

一今晚菅沼半兵、津田治兵、奥津十右、山下藤右、板坂卜齋
私宅へ振廻申候、八時分ニ被参、暮候而被帰候

同十一日 夜半過ニ少地震

今朝五前ニ寄合場へ罷出、昼前ニ帰宿仕候

一了法寺之住寺、今日被致出寺候

一今晚夜ニ入、不受不施御改御尋之趣、江戸より書状書付到来、但当月三日之日付也、坂田住持へ法儀改候段申渡候も当月三日也

同十二日

今朝五前ニ宿罷出雲蓋院へ参候、則大師堂へ致参詣候様ニと雲蓋院御申候ニ付、長袴を着致参詣候、御影前へ銀子五枚献上仕候、雲蓋院御出五ヶ坊衆も被罷出候、御影前ニ而拙者致焼香候様ニと雲蓋院御指図故、任其意焼香いたし奉拝候、其以後態祝儀と御申昆布給、扱御酒給退出仕候節、雲蓋院じゆず一連御持出候而、今日之首尾ニ御影前ニ而御渡候旨ニ而拙者ニ給候、則頂戴退出仕候

一御寺へ罷帰、長袴之儘ニ而雲蓋院へ祝儀之礼相勤申候、一種一荷小袖三つ持参仕候

一五ヶ坊と申候へ共、六ヶ坊へ為祝儀銀子壱枚つゝ遣候

一雲蓋院居間ニ而振廻出、念入候馳走也、上之床ニ探幽ゆいまノ絵、次ノ床ニ雪舟せきれい之絵かゝる振廻相済、かたいて雲蓋院手前ニ而茶給、花入遠州筒之由、かすかい三

つ入、花梅椿、茶入中古瀬戸かたつき茶わんわりとつたい、いらばう内ニ少朱ノ繕有、茶杓利休之由、かまさいみ、古そうニ見ゆる瀬戸ノ水指セいたかし、茶過すミ所望ニて御なをし、其節之香箱織部やき

一昼前ニ雲蓋院を罷出、則門外より玄關迄罷帰、今日之礼申達候、今日之相客加納五郎左、飯嶋五郎右也、向日了二、成田庄次ハ勝手者ニ而相客也

一雲蓋院より直ニ坂田へ参詣仕、寺内見廻り、八前ニ帰宿

同十三日

今朝四時分ニ致登城、頓而御目見仕、しハし御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一今晚雲蓋院私宅へ申請候、八時分ニ御出、暮合ニ御帰候、尤今度拙者宗門改申候祝儀也、就夫門札雲蓋院御持参候而被懸御意候、今日吉日故則門ニ打候様ニと御指図ニ而其通ニ仕候、向日了二、加納五郎左、飯嶋五郎右、成田庄次相客也、六ヶ坊之衆も御出候

同十四日 八時分ニ少雪ふる

今朝四時分ニ致登城御用御座候而、しハし御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一松平九郎左、先日江戸へ被罷下候節頼入候儀ニ付、九郎左
と今晚書状到来

一夜ニ入、從左京様為御使三浦小八郎方を以、御肴一種拝領
仕候、是ハ今度御奥様御平産ニ付而之為御祝儀被下置之由、
將又右為御祝儀、先日御肴差上候義をも御意被成下候

同十五日

今朝四前ニ致登城、頓而首尾好御目見仕候、其以後御表へ
出御被遊、何れも御目見御坐候而、昼前ニ帰宿仕候

一蓮心寺に如例御守門札菓子など今日給候、今度坂田了法寺
法儀改、我等も改宗仕候段、去九日ニ小林佐次兵衛を以蓮
心寺へも申遣候処ニ、か様ニ門札給候儀相違ニ候、然共我
等返し候と申儀ハ如何候間、年寄共心得ニ而門札斗断申さ
セ返さセ候

一今晚志賀弥三左、中川七左、天野四郎左、板坂卜齋、才藤
源藏、同大吉振廻申候、中野栄雲も呼申候、其外いつも被
参候勝手衆も呼申候、八時分ニ被参、夜ノ四前ニ帰被申候
一坂本之ばくろう甚太郎と申者持候麻毛五歳駒、今日かい申
候、たけ四寸有之肝煎山中半三郎

同十六日 夜ノ五前ニ雷、少雨ふる

今日ハ拙者共登城不仕候、昼過ニ拙者義帯刀内へ見廻、し
ハし語候而、それより宇治屋敷へ参、七過ニ帰宿

同十七日

未拙者服明不申候ニ付、今日も和歌へ伺公不仕候

一明日坂田了法寺へ雲蓋院より番僧御越可有由、躰ニ雲蓋院
も可有御出哉との義ニ付、我等儀今昼時分ニ坂田へ参、見
廻り掃除等申付、七時分ニ帰宿

一去ル十三日、我等屋敷表門札雲蓋院御持参被下、則うち申
候、右之外うら門又ハ宇治屋敷表うら門札、江戸屋敷表裏
門札御認被下候様ニと、其以後頼入候ニ付出来今日給候、
右拙者留守ニ参候故罷帰、御札為使者石橋市左衛門指越候

同十八日

今日坂田了法寺へ雲蓋院より先番僧可有御越由、躰ニ雲蓋
院も可有御出由ニ付、拙者儀今朝五時分ニ宿罷出坂田へ参
候処ニ、四過ニ雲蓋院御出番僧利正坊被召連候、大相院、
円成院をも御同道也、先座敷へ御通り茶たはこなとまいり、
しハし御咄候而之上、本堂、釈迦堂、ねはん堂御覽候而、
三十万部供養之石塔御拝見、日正、日種、日健、日明之御
はかへ御回向候て、扱又座敷へ御通り、客殿をも具ニ御覽

候、其以後盃振廻をも出し候処ニ、緩々と御咄候而、七前
ニ坂田御立御帰候、則為礼大多和治右衛門指遣候、向日了
二、成田庄次も御出取持也、右之通故拙者義、今日者御城
へ不罷出候

一去ル十日十兵衛にかし候網懸之鶴、江見八兵とらへ被申候
由ニ而、今日長田権十迄越被申候、就夫則礼使越申候

同十九日 昼前ニ少雪

今朝四時分ニ致登城、昼過ニ帰宿仕候

一相州様も歳暮之御祝儀物、例之通相公様へ被進之、為使者
飛山源太左衛門と申仁被指越候、四過ニ登城御振廻被下、
其上御対面被遊御盃被下、昼時分ニ退出被申候

一今晚有馬清兵、正木郷右衛門、同庄蔵、小嶋太左衛門振廻
申候、但小座敷ニて

同廿日

今朝六半時分ニ宿罷出和歌へ参、先直ニ雲蓋院へ参候而、

一昨日坂田へ御出候礼、又頃日門札ども数多御認給候礼申
達、それら合院へ参、宰相様御参詣を相待御供相勤申候
一今日者私宅す、はき申候ニ付、和歌より直ニ吹上下屋敷へ参、
八過ニ帰宿仕候、其節向田了二老、成田庄次方へ参、頃日

度々見廻被申、種々肝煎被申候礼申置候
一波多野玄等も隠元之墨跡、今日京都より参候

同廿一日 夜之五時分ニ雷

今朝六半時分ニ宿罷出、養珠寺へ致伺公、相公様御参詣之
御供相勤、昼前ニ帰宿仕候、今日者妹背山へも御参詣被遊
候

同廿二日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候

一今日雲蓋院へ為使小林佐次兵衛指越申候、是ハ坂田百姓共
先年寺地之儀ニ付一札有之候、其段雲蓋院へ指図を請申候、
先成田庄次へ申遣候処ニ、則庄次も和歌へ被参候、向日了
二も御越候由

一佐次兵衛罷帰候、以後追付雲蓋院より円成院を被指越、先
刻伺候一札之儀如何ニも御心得候由、弥御申越候、了二、
庄次も同道也

一去十九日有馬清兵など振廻候節、弥平次ハ当番故不参候ニ
付、今晚弥平次斗振廻申候

同廿三日

今朝四時分ニ致登城、追付御前へ被召出、昼前ニ帰宿仕候

一 今晚夜ニ入於要行寺御入仏尤御法事有之、宰相様六半時分ニ御参詣御焼香被遊、しハし御法事御聴聞被成御帰被為成候

一 左京様為御名代鈴木四郎兵衛御焼香相勤申候、其以後拙者共自分ニ奉拝候、七半時分ニ要行寺へ参、五時分ニ帰宿仕候

同廿四日 暮合ニ少雨

今朝七半時分ニ宿罷出、大智寺へ致伺公、宰相様御参詣を相待罷有候

一 宰相様日ノ出前ニ大智寺へ御参詣被遊、それより要行寺へ御参詣被為成、御法事御聴聞被遊、其内御はいぜん御焼香被遊、御法事過候而御石塔へ御参詣被遊、五過ニ御帰被為成候

一 右御供拙者共相勤御跡ニ付御城へ罷上り、昨夜御入仏今朝之御法事首尾能相済、目出度奉存之旨、津田治兵、志賀弥三左へ申達、帰宿仕候

同廿五日

今朝六半時分ニ蓮心寺へ致参詣、五時分ニ帰宿

一 四時分ニ致登城候、正木五郎右衛門儀未病氣しかとも無之

候ニ付、来春御供可仕と難申候、乍此上見合候而菅沼半兵

など迄申達度存候へ共、万事御供組合御長屋等之義ニ到迄、

前方不相定候へハ如何御座候間、先半兵迄申達候、兎角氣

分次第御供可仕との念願ニ御座候由、岡野平太七かれ郷右

衛門を以半兵迄申達候由、就夫昨日被仰出候ハ、氣分弥養

生可仕候、先来春御供之儀ハ御免被成候、氣相も本復仕候

ハ、江戸にての御様子次第可被召寄之旨御意御座候由、

昨日郷右衛門申聞候ニ付、今日右之御札半兵迄申上候、其

以後御前へ何れも被召出、御用御座候而しハらく罷有、昼

時分ニ帰宿仕候

一 今度拙者宗門改候ニ付、逆修之石塔坂田ニ立申度由、先日

雲蓋院へ物語仕候処ニ可然由御申候ニ付、石塔之絵形いた

し、今日円成院迄緒方清大夫ニ指越候へハ、則雲蓋院御覽

候而一段可然由御申越候

同廿六日

今日ハ御用も無御座候ニ付、拙者共登城不仕候

同廿七日 終日風吹

今日も御用無之ニ付、拙者共登城不仕候、然所ニ八前ニミ

など御勘定衆中原武左衛門家より火事出来、三四軒焼失風

つよく候故、何れも御城へ罷上り候、火静り候注進御座候
而之以後、御前へ拙者共被召出御目見仕、八過ニ帰宿仕候
一今度長光様江戸御下向之御供布施佐五右相勤、去廿二日ニ
被帰候、就夫今晚振廻申候、茶屋小四郎斗相伴ニ呼申候、
蔭山宇右衛門頃日病氣致本腹、昨日罷出候ニ付今晚是をも
加申候、八半時分ニ被参、日ノ入相前ニ被帰候、但小座敷
ニて

同廿八日

今朝五過ニ致登城候、頓而御前へ被召出首尾能御目見仕候、
其以後御表へ出御被遊何れも御目見御座候而、四過ニ帰宿
仕候

一今八過ニ太郎八方、源藏方、海安老為歳暮私宅へ被参候、
則小座敷ニて料理いたし茶振廻、それら咄候而夜之四過ニ
帰被申候、宇右衛門、権十、角兵、九左も夜ニ入被参候、
長斎、永庵も参候

同廿九日

為御歳暮今朝四過ニ登城仕首尾能致御目見、昼時分ニ帰宿
仕候